

# 月歩学歩

「げっぼがっぼ」と読んで欲しいが、その意味は、“月日を歩き、学んで歩く”ということ？

## 特集

### 「入学式」

【歓迎の言葉】「その時その時は、楽しかったり、辛かったりと、目の前のことで精いっぱいでしたが、今、終わってみると全ての事がつながっているように思えます。何度も同じことで悩んでいることに気づき、そこから課題が見えたり、自分の良さを知る事で自信となったり、自分自身と向き合うことの大切さに気づくことができたと思います。」（岡澤あすみ）

【新入生の言葉】「私たち130名は幼児教育の専門家、保育の専門家になるために、今日、千葉明德短期大学に入学します。私には学びたいことがたくさんあります。」（鈴木 伶奈）

2-7P



## その他の内容

### キャンパスライフ

- ◆ 新任教員によるご挨拶 8-9P
- ◆ オリエンテーション・ウィークを振り返って（池谷潤子・鶴田真二）  
10-11P
- ◆ 新入生の「決意表明」 11-14P

### 関連フィールドから

- ◆ 「附属幼稚園のいま」（笹光夫） 15P



## 特集 「入学式」



4月3日（水）に行われた入学式は、式前から式後まで新2年生が主だち、第44回生となる新入生130名を迎えました。

まず、式前は、中村恵美さんと花島悠希さんが「ワインディングロード」を、江原愛美さんと新城美菜紀さんが「ラブソディー・イン・ブルー」を演奏して、新入生を迎え入れました。その後、式も含めこれからも歌う校歌の練習を、島綾音さんの伴奏と共に浦香梨菜さんが明るく仕切り、集まった20名近い2年生たちの歌声は、新入生たちの瑞々しい歌声を後押しするものとなりました。

式では、岡澤あすみさんが今までの実習や学校生活から見てきたことをメッセージとして語り（詳細は次ページより）、式後は、これから共に学び合う仲間としてお互いを知り合う機会をと、金光亜美さんと宮田栞さんの司会による新入生の自己紹介が行われました。新入生たちめいめいが、聞いている全員の方に体を向けて堂々とした姿を見せ、ひとりひとりの顔が見える新年度の始まりとなりました。（田中）

## 歓迎の言葉

～人とかかわること・人との距離について～  
岡澤あすみ



新入生みなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんはどのような気持ちでこの日を迎えられましたか。夢に向かう希望を胸にしながらも、これから何が起こるのだろう、どんな人と出会うのだろうと、様々な気持ちをかかえていることと思います。1年前の私も、学校は楽しいだろうか、友達はできるだろうか、新しく始まる生活についての楽しみと不安を抱えていましたが、今、振り返ると、これまでになく充実しており、あっという間の1年間でした。その時その時は、楽しかったり、辛かったりと、目の前のことで精いっぱいでしたが、今、終わってみると全ての事がつながっているように思えます。何度も同じことで悩んでいることに気づき、そこから課題が見えたり、自分の良さを知ることによって自信となったり、自分自身と向き合うことの大切さに気づくことができたと思います。

そのきっかけとなったのが、これからお話しさせていただく「幼稚園での実習」とその振り返りをする「保育内容」の授業、そして、少人数で語り合った「模擬ゼミ」でした。

明德では、1年次の4月から、月に1回幼稚園に実習に行きます。私は、4歳児クラスに入り、子どもと一緒に過ごしたり、遠足や運動会、発表会にも参加させていただきました。そして、その時の実習のレポートを元に、それぞれの学生が書いたエピソードを読み合い、学びを深めていきました。1年間、少人数の同じメンバーと学び合うことで、お互いの良さや課題が見えてきたり、本音で意見を言い合える仲間になったと感じています。時には厳しい言葉をかけられたり、辛い思いをすることもありましたが、それは相手のことを

真剣に考えているからこそ言えることだと思えます。気づきや意見を伝えあうことは、とても大切なことだと感じました。

初めての实習は、不安と緊張ばかりで、子ども達とうまくかかわれるか、受け入れてもらえるかなどを考えていました。Mちゃんと折り紙をしたり会話をしたりして、「かかわることができた」ことに安心しました。しかし、一緒に遊んだり、多くかかわることができたと思えたのは、結局、Mちゃんたち2人だけでした。その後、いろいろな子どもと話をしたり遊んだりしてみたいと思いましたが、Mちゃんに「ここにいてほしい」と言われ、まだ自分から子どもたちにかかわることに不安な気持ちがあり、なついてくれたことがうれしい気持ちから、ついMちゃんといる時間が多くなってしまいました。

後期になり、2か月ぶりの実習の日、Mちゃんは遊ぶ時間だけでなく、集まる時などもずっと私のそばにいました。担任の保育者とも相談し、自分なりに考え、Mちゃんが満足するような声かけを心がけました。遊ぶ時にMちゃんと意識してたくさん遊び、その中にほかの子を巻き込んでみたり、整列する時に「Mちゃんのこと後ろから見ているからね」と、離れていても安心し、満足できるように声をかけてみたりしました。そして、時と場合を考えて、遊ぶ時は遊び、しっかりする時はしっかりすることを伝えることが出来、それ以外でも意識することができました。はじめは自分の不安から、子どもと一緒にいましたが、子どもの気持ちを受け止めつつ、適度な距離をとることができるようになりました。

実習の終了日、外遊びをしている時に、私のために砂でケーキを作って持ってきてくれた子がいました。その時は一緒に遊んでいなかったのですが、その子が一緒にいなくても私のことを考えてくれていたことを知り、とてもうれしく感じたと同時に、直接かかわることがなくても気持ちは伝わるのだと思いました。

後期になり、総合演習の授業を受けた形で模擬ゼミが始まりました。この頃、学校生活にも少しずつ慣れてはきたものの、毎日、ただ何となく過ごしているように感じていました。まだ周りを気にして、その場の雰囲気や人に合わせるようにもなっていました。そして、自分の事も好きになれませんでした。私は、「このままではいたくない」「自分を変えたい」と思っていました。そのため、いろいろなテーマがある中で、「人とかかわる」というテーマのゼミを選びました。この模擬ゼミで友だちや先生、いろいろな人とかかわり、自分の本当の気持ちを伝えたり、他者の意外な一面や知らなかった部分を見ることで、印象が大きく変わったりしました。活動を共にする中で、一人ひとり、個性があり、みんなそれぞれ素敵なおところがありました。しかし、たとえ周りから見ると素敵なおところでも、本人はコンプレックスを持っていることがあることも知りました。きっと、自分にも良いところがあるかもしれない、私は私だと思えるようになっていきました。

1年次の最後に行った保育所実習では、「明るさや元気、積極性」が課題と言われ、自信を失いかけていました。実習3日目、担任保育士に、「こんな自分でも実習を通して変わりたい」と伝えたところ、「変わらなくてもいいんじゃない。もっと自信を持ちなよ〜」と、語りかけるように言われました。この言葉を聞いて救われたような気がしました。私は、この1年間、人とかかわることや人との距離について、実習や普段の生活から、常にぶつかり、自分自身と向き合おうとしました。しかし、本当に向き合えたのかは、まだ分かりません。一人ひとり、個性があり、皆それぞれ素敵なおところがあること、そして、きっと自分にも良いところがあり、変わらなくてもいいかもしれないこと。これは、実習と授業、日常がつながった瞬間でした。また、Mちゃんの気持ちを受け止めつつ、適度な距離をとったこと、直接かかわることがなくても気持ちは伝わること。普段から人とのかわりに戸惑いを感じていることが実

習にも出たのだと思いました。しかも、いつも“私がわ”のとらえ方や理解の仕方になってしまっていることに気づきました。私はこれから、人とかかわる時は相手の立場に立って考えられるようになりたい。自分自身と向き合い、悪いところだけでなく良いところも見つけて自信を持ちたい。そして、自分らしくいたいと思っています。

私は、入学したばかりで、すぐに実習が始まり、どんどん忙しくなり、いろいろなことに悩みました。自分が好きになれず、いつも周りを気にしていました。しかし、そんな時に支えてくれる人が必ずいます。自分が大きく変わるチャンスもたくさんあります。

これから共に、たくさんの人と出会い、様々な経験をしながら、自分の課題や大切にしていきたいものを見つけていきたいと思います。

## 「歓迎の言葉」に寄せて

石井章仁

岡澤さんとは、保育内容演習のグループの担当として、この1年間、かかわってきた。教育実習や毎週金曜日の1～3限に小グループで顔を合わせるため、グループの学生同士や担当教員との結びつきは自然と深くなる。彼女は、スタートアップカレッジ（入学前教育）のグループの担当でもあったので、入学前から今まで、彼女の苦楽を垣間見てきた。

入学して間もない頃、ぽつんと1人での姿を見かけたこともあった。彼女には社会的な印象を持っていたので意外に映り気になった。また、のんびりしているようで率直にモノを言う人だった。30代の学生のレポートに対して「難しい言葉が多くて意味がよく分からない」と発言し、周囲の笑い（本当は共感）を誘った。

9月には、同じグループの秋山さんと私と共に富士山に登り3776mの頂に立った。登ったからで

はないだろうが、彼女たちはそこから徐々に変わった。私だけでなくグループ全体が、2人の後期からの“伸び”を感じるようになった。岡澤さんは、いつの間にか、本音が出せる人になっていた。年間を通して、何人かの学生が変化したり伸びてきたりすることがあるが、彼女の場合、人との関係性の広がりもあった。彼女は、教育実習で、子どもとの距離感について苦労したことを「1年間の学び」にまとめた。私は、「なぜ1年の学びでこのエピソードを取り上げたのか、それは普段の人間関係でもそこが気になっているからではないか」と質問した。皆の前だったが、彼女は否定せず堂々と「そうだ」と答えた。

この1年で、彼女は、彼女の側から見えたものについて、素直に書き、彼女なりの考察ができるようになった。しかしまだ、子どもの側に立っていない。その子がなぜ、そうせざるを得なかったか、そうしなければ済まなかったのか、“たまに来るお姉さん先生”にくっついていなくてはいられなかったのか、そこを子どもの側から見ることができるかどうかは、彼女の2年次の、もしかしたら将来的な課題となるだろう。彼女の話では、そうせざるを得ないその子の側の背景があったのだという。しかし私は、この「歓迎の言葉」を作成する中でそれを初めて意識して聞いた。これはその子を理解するのにとても重要な出来事だったはずである。しかし、問われたからこそ出てきたが、問われなければ、そもそも関連付けられず、単に私の「距離感」の問題で終わっていた。

実習で出てくること、実習で出てくる良さと課題、それは決して実習だけで終わる事ではなく、その人自身の人間性や生き方にまで波及する。だからそれを、自身の人生や生き方にまで広げて考えられるかどうかは今後問われる。厳しい言葉かもしれないが、彼女の今後の成長を期待し、あえてそう投げかけたい。



## 新入生の言葉

鈴木伶奈

やわらかな春の日差しが降り注ぐこのよき日に、このような素敵な入学式を挙げていただき、ありがとうございます。新入生を代表し、心よりお礼申し上げます。私たち130名は幼児教育の専門家、保育の専門家になるために、今日、千葉明德短期大学に入学します。

私には学びたいことが沢山あります。保育の基礎は勿論ですが、ピアノの弾き歌いや絵本の読み聞かせの仕方、色々な遊びなどわからないことが沢山あります。11月からのスタートアップカレッジでは伝承遊びを体験しましたが、初めて遊んだ遊びもありました。入学したら、もっと沢山の遊びを発見して、実習や就職先で子どもたちに教えられるような遊びの達人になりたいと思っています。

私がこの短大への進学を希望した理由はいくつかありますが、その中でも特に、アットホームな雰囲気に魅力を感じたからです。オープンキャンパスで訪問した際に、先輩方と先生がレポートの読み合いの授業をしていました。教師と学生というような壁はなく、保育の先輩と後輩といったような感じに見えました。そのような雰囲気を見て、私もこの学校で保育についてたくさん学び、知識を増やしていきたいと思いました。

きっと学んでいく中で、何度も壁にぶつかる時がくると思います。その時は、先輩方や先生の力をお借りするかもしれません。私たちも一生懸命頑張りますので、どうか、あたたかい目で見守ってください。そして色々ご指導ください。よろしく申し上げます。

## 理事長祝辞

福中儀明



130名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。またご家族の皆様方、おめでとうございます。

本学は1970年に創立されました。皆さんは第44回の入学生になります。

新しい出発という、このよき日、まず最初に本校の名前「明德」の由来について説明させていただきます。

今から約2000年昔に書かれた中国の古典「大学」の中に「明德」という言葉が出てきます。

「大学」といっても高校に続く大学のことでありません。「小学」に対する「大学」の意味です。「小学」といっても小学校のことではなく、「小さな学問」いわゆる、よみ・かき・そろばん、といった個人が生きていくために必要な身の回りの基礎的な学問——これが小学です。

一方、大学は小学よりもっとレベルの高い大きな学問——自分が生きるためではなく、世のため、人のためになる学問を意味します。

「大学」を究めるためにはどうしたらよいのか？この本の中には次のように書いてあります。——「大学の道は明德を明らかにするにあり」

「明德」とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性であり、明德を明らかにする、とはそれを輝かせる、ということです。

さらに続く一節には、「明德を明らかにせんと欲する者は先ずその知を致す。」とあります。明德を明らかにするためには、まず知恵と知識を身につけ知性を究める。そうすれば善悪の判断ができるようになり、心が正しく豊かになる——ということです。

本学は小さな組織ですが中身は豊富に詰まっています。同じキャンパス内には附属幼稚園があり、こども臨床研究所があります。学校附属としては千葉県内最初の明德本八幡駅保育園があり、さらに二番目の駅型保育園である明德浜野駅保育園もあります。姉妹法人である社会福祉法人千葉明德会の明德土気保育園もあります。つい二日前には千葉明德会の二番目の保育園として習志野市内に明德そでの保育園も開園しました。

ですから皆さんはきょうから本学の学生になったわけではありません。入学と同時に幼稚園や保育園の研修スタッフになったと考えていただいたほうがよいでしょう。明德の総合保育創造組織の一員に加わったのです。

皆さんのこれからの学びと活躍に期待し、理事長よりの祝辞と致します。

## 学長挨拶

簾光夫



130名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

保護者の皆様、誠におめでとうございます。

新入生の皆さんは、「保育者」になることを目指して入学されました。2年後には全員が保育者としてどこかの保育の現場に就労されていることを心から願っています。皆さんのひとりひとりの学ぶ姿勢、努力があることが基本ですが、私たち教職員は全力で皆さんを支援することを約束します。

保護者の皆様、2年間のご支援を宜しくお願い致します。ご家庭の2年間の学生生活を支援され、安定した生活を送れることの大切さを強く感じています。

日本の社会では格差社会、若者の貧困化が大きな課題となっています。こうした中で、2年間で保育者として、保育の現場に就労するという意味、就労先を獲得し、社会人となること、自ら安定した収入を得ることの大切さを痛感する時代です。

そして、保育者になることは、それだけでなく「人を支える側」の人になるということ、「支えられる側」の人の気持ちを理解できること、そして相手の人の立場でものを考えて生きる人になろうということです。20才の年齢で、自分のことを側に置いて他人のことを考える。—これは凄いことで、大人に成長できる第一歩となります。私たち、明德で保育を学ぶ、保育を生きる人間になろうという2年間の教育課程は、ここに重きを置いています。ですから、「共に学び合う」ことを大切にしています。私たちと共に学び合い、学びを深める学生は必ず保育の現場から求められる人間となります。

私たちは教育課程の2年間だけでなく、卒業後5年間は皆さんを支え続けることを謳っています。そして、5年間保育の現場で働いた卒業生が短大に戻り、皆さんを支援するスタッフになっています。

更にこの4月から研修生制度をスタートさせました。今年の6名の研修生は非常勤の職員として、保育の現場に就労しながら自立した暮らしを創り、1年間スクーリングや研修講座を平日の夕方、土曜、日曜を使い、短大で学びを深めます。2年間では十分にできなかった保育の面白さ、楽しさをしっかり学び成長させて、次の年には正式に保育者として就労する制度を創りました。

私たちと共に保育を学び、保育者に育つとい

うこと。研修生として、保育現場に就労しつつ、1年間学びを深めるということ。また、卒業後5年の経験を積んで短大に戻り、スタッフとして学生支援、自らの5ヶ年間の実践を振り返る時間を創るということ・・・。

これらは日本の社会を創り換える営みであり、ひとりひとりが保育を生きる生き方であると考えています。

短大での2年間を基礎に、私たちの生きる時間を、保育の中で人の育つ時間に創り換える・・・人が生まれて両足で立つまでの時間が約1年です。保育園では0歳から生活を共にする6年間という時間、幼稚園では3年間という時間・・・人と人との関わりの中で、お互いが育ち合いを共有する、時間と暮らしを創造する。これは決してお金で換えることのできない豊かな関係が生まれます。明德という小さな短大が多くの保育園、幼稚園との信頼関係の中で、皆さんの学び、育ちを支え合う、暖かい、豊かな関係を築いていく。

皆さんは今日からこうした関係の中で、ひとりひとりの学び方、育ち方を創っていくスタートを切りました。大きな豊かな学び合いを創造されることを願って、私の式辞とします。



## キャンパス・ライフ

### 新任教員によるご挨拶



あかしげん  
明石現

明德の教員として、またギタリストとして「芸術を教育・福祉へ」をテーマに活動を続けております。

芸術を自分の生き方の分母の一つに加えることは、「人として如何に生きるか」という学びの原点に直接的に働きかけることと考えます。保育の道を志す学生の皆さん、そして皆さんが未来に出会う子ども達、その日々の暮らしにこそ芸術に触れあう機会が必要です。

美しさへの感受性を養うことが、他者への許容、受容、延いては社会の潤滑油になることと思っております。

ありまゆうこ  
有馬祐子

今年度の「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」を担当することになりました。



六年ぶりに千葉明德を訪れ、自然の美しさ、教職員の方々の優しさ、学生の豊かな感性に、胸がじーンとしています。

私の、主に助産婦、保健師として勤めてきた経験の中から、学生の方々に役立つ情報をお届けしていきたいと思っています。

好きなことは、お菓子作りと本屋めぐり。どうぞよろしくお願ひいたします！



しげたきよえ  
重田清江

私は、この三月末まで四十年間、保育現場で保育士として勤務しておりました。その

間、いろいろな立場で保育所の仕事や運営に取り組んでまいりましたが、行政に関わった六年間は、特に保育士の有り様について深く考えさせられました。

四月から、学生の皆様に教える立場としては一年生ですが、今まで考えたこと、経験したことを伝えると共に、私も学ばせて頂きながら、保育について考え続けたいと思います。

たかもりともこ  
高森智子

こんにちは、高森です。2年間図書館で学生皆さんの学びをお手伝いしてきましたが、今年度から深谷先生と一緒に「児童文化」の授業も担当することになりました。



人生は学ぶことの連続です。私自身も頑張つて、皆さんと一緒に少しでも学ぶことの面白さを考えることができたらいいなと思います。もちろん、普段は図書館にいますよ。スターバックスのお話ライブにも参加するので、みんなで楽しい会にしていましょね。

いしかわゆうこ  
石川優子

私は10年前に明德を卒業した卒業生で、9年前から短大で授業アシスタント等をしています。今年度より助手として働くことになりました。

私にとって明德で学んだ2年間は、今までの人生の中で最も濃く充実していた時間だったと言っても過言ではありません。一番には恩師と思える方との出会いがありました。まだまだ未熟な私たち学生を、保育を共に考える仲間として認めてくださり、対等な関係を築いてくださいました。そんな先生方が明德にはたくさんいて、保育のこと、人と向き合うこと、頭がパンクする程考え、仲間と議論し、学びの面白さもそこで実感しました。明德での日々や出会いは私の財産となり、その後の人生までをも変えたように思います。学生の皆さんも明德でそれぞれ充実した日々を過ごせるよう、微力ながら私も努めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

あづまさやか  
東沙也加

私は短大を卒業してから千葉市の保育ルームで5年間子どもたちと関わってきました。お日様のようにその場を明るく照らしてくれる子どもたちの笑顔には、常に救われてきたように思います。この4月からは縁があって助手として再び明德へ戻ることとなりました。学生生活を送ってきた懐かしい場所での仕事ということで嬉しい気持ちと、今までと少し違った仕事という不安な気持ちとが入り混じっていますが、学生のサポートをしながら自分自身もしっかり学んでいけたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。

むねかわさなえ  
宗川早苗

初めまして！私は5年間保育園で勤めてきました。保育士の仕事は想像もつかないくらい大変な事が多く、落ち込むこともありましたが、しかし、私が辞めることを知り保護者の方が声を掛けてきたり、2才の子が淋しく泣いてくれたり、こんなにも私を必要としてくれていた人がいたんだと最後に感じる事ができ、「保育士をしていて良かった！」と心から思えました。少しでも、保育士としてのやりがいや楽しさを学生に伝えていけたらなと思います。

## オリエンテーション・ウィークでの新入生の「決意表明」を振り返って

池谷潤子・鶴田真二

昨年11月から4回にわたって行われた入学予定者を対象とする「スタートアップ・カレッジ」に続く形として、新入生のための「オリエンテーション・ウィーク」が入学式の翌日から2日間行われました。明德短大に入学し、資格と免許を取得するための科目履修の手続きだけでなく、新入生にとって「明德で共に学ぶ仲間としてどのように学び、学校生活を送るのか」ということを知り、明德が大切にしていることを具体的に知る2日間になったことと思います。

初日午後に行われた総合演習では、学生はこれから2年間共に学ぶ仲間と出会い、グループに分かれて互いに自己紹介を行いました。この時に学生一人ひとりが記入した自己紹介カード（名前、育った地域、今思っていることなど）には、趣味などの他に、「保育士という夢を叶える為に、毎日笑顔で何事にも一生懸命に取り組んでいきたいです!!!」「短大では勉強ももちろんですが、みんなとわいわい騒いだり、いろいろな活動に参加できたらいいなと思っています」「短大で勉強ついていけるか不安」「2年間、不安もたくさんだけど一緒に頑張っていきましょう」というように、これからの学生生活に対するわくわく感や不安感が書かれていました。自己紹介の後、これから学生にとっての生活の場となる千葉明德学園内フィールドワークを行いました。本学園敷地内には、短大・高校・中学校・幼稚園・わくわくの森（理事長が毎日のように散歩・手入れをされています）がありますが、この日は、学生は短大・幼稚園・わくわくの森をグループの仲間と探検し

ました。わくわくの森の中にある「かっぱ池」で学生の様子を見ていましたが、春の陽気のもと、多くの学生が元気一杯に探検していた姿が印象的でした。また、フィールドワークの途中、日々の気づきを記録するためのメモ帳を作成する場を設けていたのですが、早速、その真新しいメモ帳に何やら書き込んでいる姿も見られました。

2日目午前のおそび基礎演習では、130人で3つの遊び（ジャンケン列車、くつつき鬼、進化ジャンケン）を行ったり、新入生の決意表明を一人ずつ発表しました。この決意表明とは「明德短大で学びたいこと、やりたいこと」について、2月のスタートアップ・カレッジの際に書いたこと、またはそのときから今日までに考えたことを、1年生全員が順番に台に立ってスタンドマイクで話していくものです。この取り組みは、3年前から入学直後の新入生への恒例の行事となっており、私たち教員もとても楽しみにしていますが、過去3年間の中で最も「保育を学ぼうとする学生としての視点」が強く表れていたように思います。また明德の学びの特徴について、公開授業やスタートアップ・カレッジを通してしっかりと感じ取り、理解していることが彼らの決意表明から伝わってきたことに驚きました。

短大生活を送るなかで、単に「友達をたくさん作りたい!」「キャンパスライフを楽しみたい!」ということではなく、これから出会っていく子どもたちに対してどのような保育者、大人でありたいのか、という新入生なりの思いが表現されていました。もちろん、これからの2

年間で様々なことを体験し振り返る中で、こうした考えは変化していくと思いますが、このような素敵な決意表明を行った自分について、節目ごとに振り返って欲しいと思います。たぶん、新入生のみなさんは初心を忘れずに学び続けているような予感がします。今月号には新入生全員の決意表明（学籍番号順）を掲載します

が、新入生の思いや期待をどのように授業や実習につなげ、具体的な体験として共有できるのか、また彼らが自主的に行動し実現できるような機会をつくることのできるのか、それは私たち教員の課題です。新入生のみなさんと共に考えながら、頑張っていきたいと思います。



## 新入生130名の「決意表明」

- |  |  |
|--|--|
| 1. 私たちの身近なものを使って子どもたちと一緒に作ったりして遊びたい。                                 | 12. 資格を取って卒業できるように頑張る。                                       |
| 2. 子どもたちを楽しませる保育者になるために、まずは自分が楽しめるようになりたいです。                         | 13. 途中で挫折しないで何事も最後までやりとげる。アフリカなどの外国の子ども達にも興味があるので勉強したい。      |
| 3. 子どもたちと毎日楽しく笑顔になれるようにしたい。  | 14. 遊びの博士  |
| 4. あそびをたくさん覚えて、子どもたちといっぱい遊びたいです！！                                    | 15. 私は伝承遊びをたくさん覚えて、それらを実習先で生かしていきたいと思います。                    |
| 5. 私はこの2年間で子供たちと成長すると、子どもの気持ちがわかる保育者になりたい。                           | 16. ひとつひとつの活動に目的を持って取り組むこと                                   |
| 6. 他の地域の保育の仕方・文化をこの2年間で学びたい。   | 17. 私は、この2年間で伝承遊びなどのいろいろな遊びの方法をたくさん学び、遊びのプロになりたいです。          |
| 7. 保護者や子ども達から信頼される保育者になりたいです。  | 18. 自分から積極的に行動できる保育者になりたいです。                                 |
| 8. 子ども達の表情から思っていることがわかる保育者になる！                                       | 19. 私は、子どもたちの気持ちがわかる教育者になりたいです。                              |
| 9. 子ども一人一人のことを理解してあげられるような保育者になりたいです。                                | 20. 広い視野を持てるような保育者になる。                                       |
| 10. 遊びの守護神になる！よろしくおねがいします。   | 21. 子どもの気持ちを考えて、優しく見守れる保育者になりたいです。                           |
| 11. まずは保育者として必要な保育をつけるため、勉強をがんばります！生活面的にはシャキッとした女性になれるように行動しようと思います。 | 22. 子どもが楽しめる遊びをたくさん学ぶ。                                       |
|  | 23. 児童心理学に興味があるので、しっかりと学んでいきたいです。また、子どもの心の健康が把握できるようになりたいです。 |

- |   |  |
|---|--|
| 24. 一日一步。毎日少しずつ一步一步、成長し続けていきたい。   | 47. たくさんの遊びを学び、子ども達に伝えられる保育士になりたいです。   |
| 25. 体力には時間があるのでパワフルな保育者になりたいです。短大生活は、新しいことにどんどんチャレンジしていきたいと思います。  | 48. 子ども達を感じるものを、これから実習などを通して感じ、その学んだことを活かし、子どもの気持ちがわかる保育士になりたい。                              |
| 26. 私は日本の遊びだけでなく、外国の遊びもたくさん学び、教えるプロになりたいです。   | 49. 子どもの気持ちを読み取れて、園児よりも元気な保育者になる。  |
| 27. いろいろな遊びを覚えて、たくさん子ども達と遊びたい。  | 50. 持ち前の笑顔と明るさで子ども達に好かれる保育者になりたい。  |
| 28. 積極的に様々な活動に参加していきたい。   | 51. 成長し合える友達をたくさん作り、何事にも精一杯取り組みたい。   |
| 29. 保育を深く学び、充実した大学生活を送りたい。  | 52. 子ども達が楽しめるように、わらべうたや手遊びをたくさん覚えようと思います。  |
| 30. 私は年代が2つほど周りと違うので、学校生活に少し不安があります。なので、友達を作って短大生活をまず充実させたいです。また、恥ずかしがり屋なので保育者として子どもたちの前でしっかり話し、教えてあげられる先生を目指したいです。 | 53. 子どもたちに負けないように、たくさん身体を動かし、たくさん食べて体力をつけたいと思います。  |
| 31. 子ども一人一人の気持ちをわかることのできる保育士になりたいです。また、子どもや保護者の人たちに信頼されるようになりたいです。  | 54. 他人の良いところをたくさん見つけられる保育者になる。   |
| 32. 子どもと、言葉以外でとれるコミュニケーション方法を学びたい。  | 55. 子どもたちと一緒に楽しく遊べる遊びをたくさん学んで、子ども達とたくさん遊びたい。   |
| 33. 実習などを通して子どもたちとたくさん関わり、触れあいたいと思います。  | 56. 子どもたちの小さな発見や成長にたくさん気づける素敵な保育者を目指したい。   |
| 34. ピアノでたくさんの童謡が弾けるようになりたいです。また、子ども達から「先生でよかった」といってもらえる保育者になりたいです。  | 57. ピアノを初めてやるので、2年間で弾けて歌えるまで成長したい。   |
| 35. 自然とたくさん触れ合い、子ども達と楽しく遊びたい！！  | 58. 子どもと同じ目線になって常に目標を持って頑張れる保育士になる。  |
| 36. 遊びの神になります。  | 59. 親のいない子どもに関して、それに関わる職種について知りたいです。   |
| 37. この2年間、様々なことに興味を持ち、楽しんでいきたいです。   | 60. 実習先で積極的に子どもたちの輪の中に入れるように、明德での2年間で積極性を身に付けたいです。   |
| 38. 子ども達の良いところを伸ばし、元気で生き生きとした保育をしていきたいです。   | 61. 優しいだけでなく、時にはきちんと叱れる保育者になりたいです。   |
| 39. 私は子どもの目線になって考えられるように頑張りたいです。  | 62. 形のない遊びをたくさん覚えて、実習先で子どもとできるようにしたいです。  |
| 40. 活動範囲と視野を広げていつでもどんなときでも人としっかり関わられるような人間になる。  | 63. この2年間で自分に自信をつけたい！そして、人前でできちんとはなせるようになります！子どもの目線よりも子どもになれるように、そして、皆から寄ってきてもらえるような先生になりたい！ |
| 41. 子ども達にたくさん楽しい遊びや歌を教えられるようになりたい。  | 64. 遊びをたくさん学び、子ども達に教えられるようになる。この2年間で遊びの便利帳が何冊にもなるような量の遊びを体験したいです。                            |
| 42. 卒業できるように頑張る。  | 65. 協調性を持つこと！  |
| 43. 子ども達に好かれるような先生になりたい。  | 66. 授業で子ども達との接し方を学び、実習で子どもの気持ちを考えて接することができるようになりたいです。  |
| 44. 色々な遊びを体験してその場の状況に応じた遊びで子どもを楽しませたい！  |  |
| 45. まず卒業までに字をきれいにする。心理学を学んで子どもの気持ちをわかるようになる。  |  |
| 46. 何事にも積極的に取り組めるような保育者にな   |  |

67. 子どもからも保護者からも同じ保育者も、みんなから頼りにされて、好かれる人間になりたいです。
68. 時と場所が考えられて、子どもだけでなく、同級生や先生、人すべての気持ちがわかる素敵な保育者になり、立派な人になりたい。
69. ピアノを弾けるようにする。友達もたくさん作る。
70. たくさん遊びを学んで子どもたちと思いきり遊びたい。
71. 2年間で子どもとの遊びや保育士としての知識を誰よりも学びたいと思っています。
72. 子どもと一緒に目線になって、子ども達と一緒に楽しめる保育者になりたい。
73. 遊びマスターになります。
74. たくさんの人との交流の中で、新しい考え方や新しい自分を見つけていきたいです。
75. いろいろな遊びをたくさん学び、遊びのテクニシャンになる！子どもや保護者の方々から信頼される保育者になる。
76. たくさん遊びを覚えて、楽しく子どもたちと遊びたい。
77. 子どもたちにたくさんのお話を教えられるように、この2年間で知識と表現力を上げていきたいです。
78. 2年間で自分の保育観をまとめ、福祉としての保育を考えたい。
79. 子どもの考え方について2年間でしっかり学んでいきたいと思っています。
80. たくさん遊びを学び、遊びのプロになる。
81. 人の気持ちを相手の立場になり、理解できるようにになりたいです。
82. 子どもたちにたくさん遊びを伝えていける「遊びの達人」になりたいです。
83. 子ども達から好かれるような立派な保育士になりたい！
84. いつも子どものために行動できるように、2年間子どもについて学びたいと思います。
85. 子どもと同じ目線になって遊べるようになる。
86. 子どもの気持ちに敏感な保育者になりたい。
87. 歌いながら、ピアノを弾けるようになりたい。
88. 親と離れている間の子どもの様子を伝えられるように、よく見える保育者になりたい。
89. 子どもたちの表情や行動で気持ちを察してあげられて、子どもたちの目線で遊べる保育者になりたいです。
90. 常に笑顔で、周りにはたくさん子ども達に囲まれている幼稚園の先生になりたい。
91. 保育士の夢を叶えるために、ピアノも勉強も一生懸命学んでいきたいです。
92. 歌をたくさん覚えて、子ども達と楽しく歌えるようになりたい。
93. 思いやりと行動力のある保育者になりたいと思います。
94. 2年間、授業や実習など、積極的に全力で取り組み、その中で試行錯誤しながら成長していきたいです。
95. 子どもたちの目線から見えるものをたくさん学びたい。私たちから見ることが子ども達から見えなかったり、子ども達から見えるものが私たちに見えなかったりすることが、面白いと思ったからです。
96. 「やればできる」の気持ちを持って、笑顔で元気に、思ったことや発想をシェアしていきたいです。
97. とりあえず、誰とでも話せるようにする。
98. 2年間で友達を作ってピアノがいっぱい弾ける保育者になりたいです。
99. 笑顔と愛情を常に保って、これからの自分の保育人生にプラスになることをたくさん吸収していきたい。
100. 世界中の遊びをマスターする！あと、ダンゴ虫に触れるように努力する。
101. 何事にも中途半端にしないように、頑張りたい。
102. たくさん友達を作って、楽しい思い出を作って、元気いっぱい保育士になりたいです。
103. この2年間でいろいろな人との会話を大切に、自分の目指す理想の保育者になりたい。
104. できるだけ多くの伝承遊びを知り、たくさん子ども達に教えてあげたい。
105. 子どもや周りから好かれる保育者になるために、まず、この2年間を無駄にしないように楽しみながら努力する。
106. 自然に子どもたちの目線で物事を考えられる保育者になりたいです。
107. 私はできるだけたくさんの人と交流することで、自分の知らない楽しいことや不思議なこと、悲しいことも共有できる人になりたいです。
108. 2年間、歌や遊びをたくさん学んで、子ども達にいろいろな歌や遊びを教えたいです。
109. 子どもと一緒に楽しい遊びを見つけられる保育者になりたい。子どもの目線で、子どもの生活の見本となるような大人（人間）になりたい。
110. 子どもにとって虫や植物などのものしり博士になりたいです。

111. 子どもたちと一緒に楽しめる遊びと音楽をいっぱい身に付けたい。それと人見知りをして、いろんな人といっぱい話したい。あと、ドライブも。
112. 子どもたちに好かれるような先生、一緒に遊んでいて楽しいなどと言われる先生になりたいと思います。
113. ピアノが上手に弾けるようになりたい。
114. たくさんの遊びを知り、遊びのプロになり、子ども達と遊びたい。
115. この2年で苦手なピアノを完璧にすることと、音楽を使って体を動かしたり、頭を使ったり、子ども達を笑顔にすることができるような保育者になれるようにがんばります。
116. 子どもに負けない遊び心を持って、日々活動していきたいと思っています。そのために、子どもよりも上手に、多くの折り紙を覚えたいと思います。
117. 明るく優しい保育者になれるように、たくさんのことを学んで、人間的にも大きく成長していきたいです。
118. 子どもたちに負けないくらい元気いっぱいな保育士になる！
119. 常に明るく積極的に行動できるようになる。
120. これから、何事にも全力で取り組み、新しい自分を見つけたい。
121. 何があっても前向きに、明るく元気な保育者になるために、2年間たくさんのことを学びたいです。
122. いろんな経験をして、自分の視野を広げたい。
123. 一人でも多くの子ども達に笑顔と幸せを与えられるような保育者になりたい。また、ボランティアに貢献し、少しでも社会貢献したいです。
124. ピアノの上手な先生になりたいので、ピアノの練習は特に頑張りたいです。
125. 遊びをたくさん発見して、笑顔の絶えない毎を送りたいです。
126. たくさん勉強して、保育を学んで、自分を好きになって成長させたいです。
127. 朝が苦手なので、遅刻や欠席をしないようにする。子どもたちとたくさん遊ぶ先生になりたい。
128. 子どもの心に寄り添える保育者になりたいです。遊びを通して、子どもたちの考えや行動を研究していきたいです。そのためにも、もっとたくさんの遊びを覚えていきたいです。
129. 周囲を観察して、周囲から学べる人になりたいです。
130. いつも笑顔を忘れずに、いろいろなことに挑戦したい！



## 関連フィールドから

### 附属幼稚園のいま

園長：熊光夫

附属幼稚園は、3年保育の約300名近い子どもたちが、バス4台の運行により通園して来る。これまで（一昨年まで）各学年3クラス3人の担任で、1クラス30名近い子どもたちを保育する状態が当たり前のように続いていた。これは附属幼稚園に限らず、小学校の教室に似た保育室は黒板が、教卓が、ピアノが・・・そして子どもたちの人数分の椅子がある。30名近い子どもたちと1人の担任の保育の展開は必ず息抜きを必要とする。附属幼稚園では広い園庭に出て遊ぶとき、子どもたちのクラスの色の帽子を被って外に出る・・・遊びを止めて一斉に保育室に戻る。この繰り返しが続いて来ていた。

社会や家庭の子どもを取り巻く環境は大きく変化し、教育要領で“子どもひとりひとりに寄り添う保育”を謳われて久しいが、なぜか幼稚園の風景は学校に似ている。

私は、この学校に似ている幼稚園の風景にどこか抵抗を感じていた・・・。園長に就任して2年目に入るとき、年長組を3人の担任とフリーの男性保育者2人（遊びの達人になれ！）、年中組は3人の担任とフリーの1人の保育者（途中、産休・育休へ）、年少組は4人の担任とフリーの非常勤保育者4人で運営することに変えた。

こうした人的構成の変化は、年長児の遊びにすぐに変化が現れた。フリーの男性保育者が朝、登園し着替えを済ませた子どもたちを外で待ち構えている。子どもたちの外遊びが日に日に広がる。裏の林の下で走り回ったり、木にロープをかけ揺らしていたり・・・。年中組も林の中で遊びが始まる。年度の後半には元気な年少児も林の中で遊ぶ姿が見られるようになる。

こうした実践に入ろうとしているとき、青木久子先生が“付き合っただけよ”と園内研修を引き受けてくれ、毎月のようにていねいな研修が始まった。このことが最大の出来事＝保育者が納得して、自分たちの保育を見直し始めたこ

と・・・私の視点で言えば小学校から抜け出す保育実践、“ひとりひとりに寄り添う保育”に取り組み始めたことである。明德の幼稚園の風景を描こうと動き始めている・・・。

後期に入って男性保育者の2人が“園joy”という名称で、平日休みのお父さんたちに保育に参加してもらう企画を提案、毎回10名近いお父さんたちが保育に参加している。3月には土曜日に親子で参加し、園庭に堀をつくり、その土で築山を創ってくれた。子どもたちは大喜びで遊んでいる。

そして、子どもたちの“育つ姿”が実によく見えたのは2月の発表会であったと思う。年少組はコロシム形式で保護者に囲まれた真ん中の舞台で子どもたちが表現する。担任はピアノの伴奏で、子どもたちが普段の保育の中でどう自律性を培っているか、とても良く見え、保育者の自信につながったと思う。年中組は3つのクラスで担任の色合いが濃く出ていた表現であった。年長組はテーマである“インディアン”の暮らしを調べた発表、文化の違い等、年長児らしい発表があり、最後は全員で合唱する表現で保護者をも感激させる内容であった。

このように、各学年で取り組んだ1年間の保育の実践で、子どもたちの育つ力を信じることを学んでいる。青木先生の指導で“要覧”づくりに取り組み、話し合いを重ねてできあがった“要覧”を保護者に配り、こうした考えで保育に取り組んでいくこと、共に育ち合いをお願いしたいと、新しいスタートを切っている。

学生たちの見学や実習も大きな気持ちで受け入れ、男性保育者を育てたいと、大きな飛躍の年になろうとしている。

青木先生が“様々な側面で開放され、子どもたちの遊びの拡がりはずごい。しかし、どのようなルールと節度を創れるか、これからが課題です”と言われ、4月に研修会が開始される。



## 5月の予定

5/9~10

1年生「学び合いのためのプログラム」

5/14

2年生 教育実習  
(幼稚園II) 事前訪問

5/15+24

研修生スクーリング

5/18

スターボックスお話ライブ

5/19

スポーツ大会

5/26

春のオープンキャンパス  
障害者スポーツ大会ボランティア

5/28

たいむ「附属幼稚園の園庭  
でおもいっきり遊ぼう!!」



発行：

千葉明德短期大学

千葉市中央区南  
生実町1412

Tel:

043-265-1613

Fax:

043-265-1627

e-mail:

[tandai@chibameitoku.ac.jp](mailto:tandai@chibameitoku.ac.jp)

URL:[http://](http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html)

[www.chibameitoku.ac.jp/](http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html)  
[tandai.html](http://www.chibameitoku.ac.jp/tandai.html)



▲ オリエンテーション・ウィークの「あそび基礎演習」にて「進化じゃんけん」…ある虫になりきっている姿

▲ 「じゃんけん列車」では長い長い列ができました▲仲間を見つけてホッ…思わず抱き合ったふたりの姿をおさめました

### 編集後記

新年度が始まり、1ヶ月が経とうとしています。新1年生たちからは瑞々しい学ぶ意欲を、新2年生からはこの1年間をどのように学ぶか迫られ決意した真剣なまなざしを、感じています。両学年の姿勢に対してどう向き合っていくかが教員に問われています。

また、このたび『月歩学歩』の編集長が、新米編集者の田中に代わったことをお伝え致します。まだまだ不慣れですが、深谷前編集長に見習いながら、学生の様子をリアルに伝える制作・編集を目指しています。それに伴い、この冊子のサイズをリニューアルし、持ち運びやすいハンディサイズにしました。ご意見、ご要望等ありましたら、右記までご連絡頂けますと有り難く存じます。(田中)

### 編集

深谷ベルタ

鶴田真二

田中葵

読者の皆様へ、『月歩学歩』に対するご意見、ご感想をメールにてお寄せ下さい。